

1. 当面の整備メニューの設計の考え方について

1.1 整備メニュー別の設計概要

(1)【水確保】雨水の利用（上池・期）

1)基本事項

集水域（ ）

- ・空港施設及び高水敷牧草地を集水域とし、現況の高水敷の排水勾配を考慮して雨水を集水する。

集水路ルート（ ）

- ・本川河岸沿いを通り、下流側で高水敷を横断し、セーフティパーク跡地を經由して、上池へ流入させる。なお、水路線形は雨水集水機能を最優先に考え、蛇行させない。

縦断形状（ ）

- ・現況地盤の勾配に合わせて、河岸沿いでは $I = 1/1,000$ 、高水敷横断部では Level とする。

水路構造（ ）

- ・集水した雨水を確実に導水するために水路底はU字溝（二次製品）とする。
- ・水路の法面は植生の繁茂を抑止するために、石張とする。また、石張部で浸透しにくくするために遮水シートを設置する。

2)配慮事項

道路横過部（ ）

- ・道路横過部は、道路機能に支障がないようにするために、ボックスカルバートを設置する。

屈曲部（ ）

- ・屈曲部は、土砂除去等の維持管理面を考慮し、柵を設置する。

水溜り（ ）

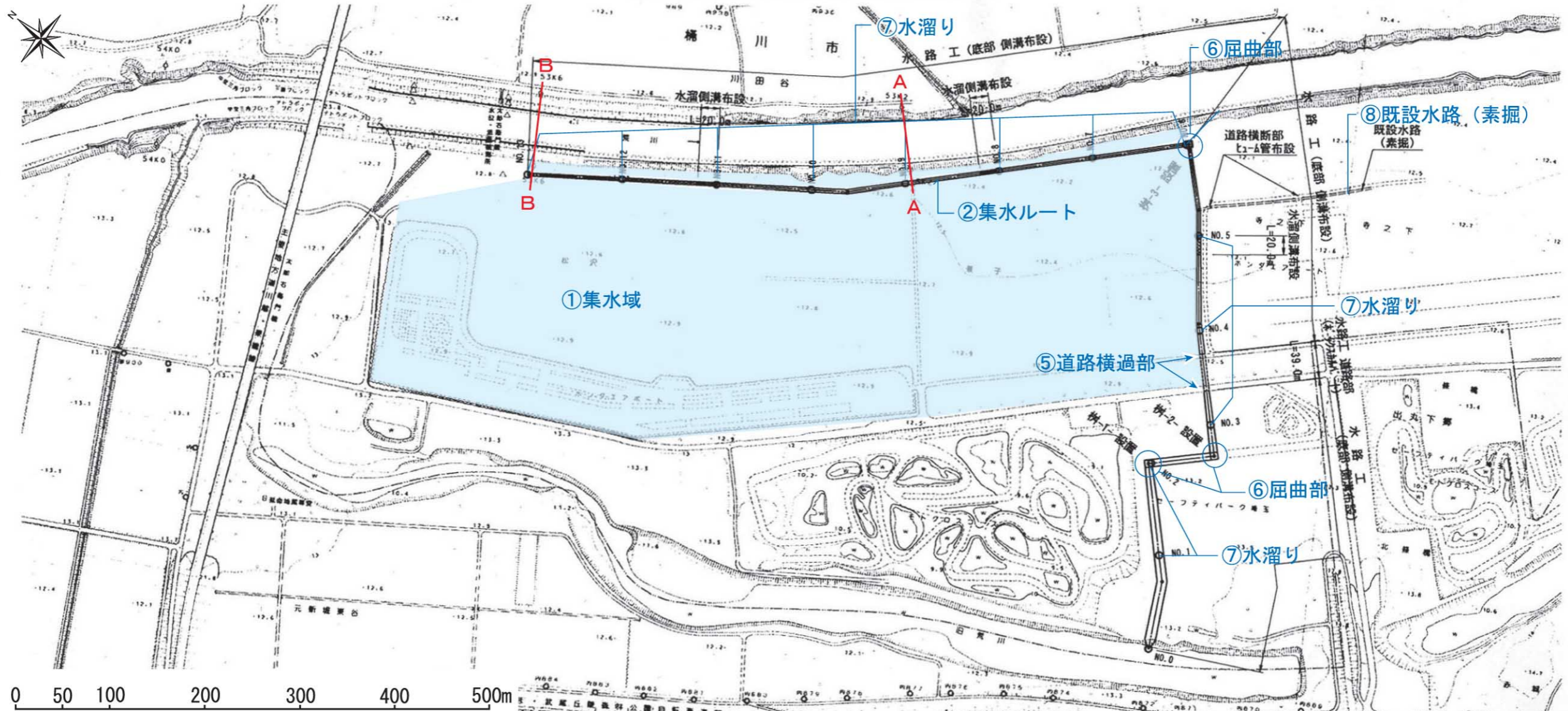
- ・降雨が少ない場合でも水溜り状態の環境が形成されるようにするため、水路床には約 300m 毎に窪みを設ける。

既設水路（ ）

- ・より多くの雨水を集水するため、ホンダエアポートに沿って設置されている素掘り水路を雨水集水路と連続させる。

雨水集水路 平面図

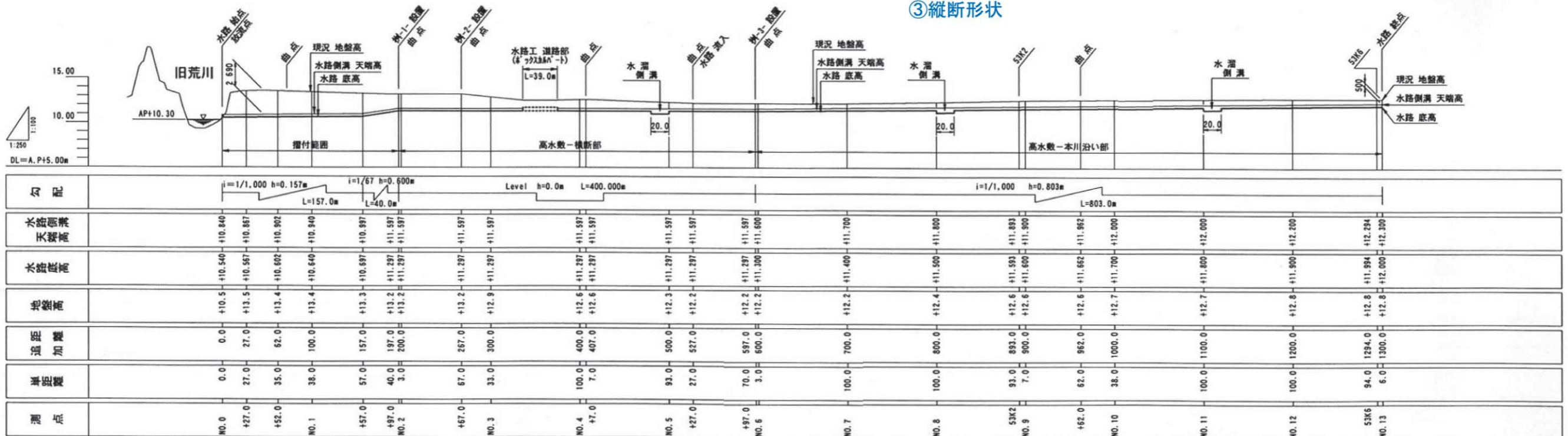
S=1:5,000



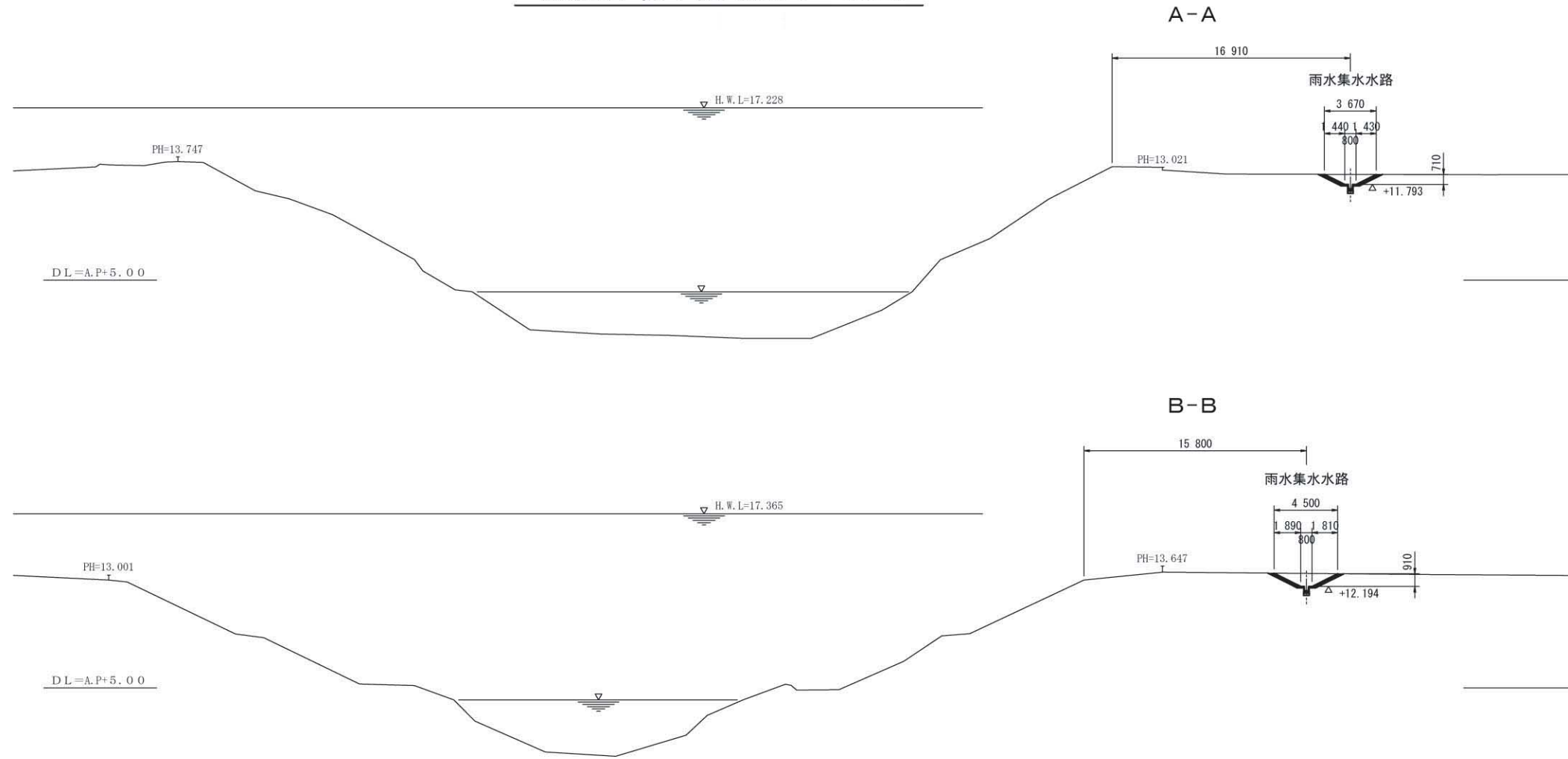
雨水集水路 縦断面図

縦 1:500
横 1:5,000

③縦断形状



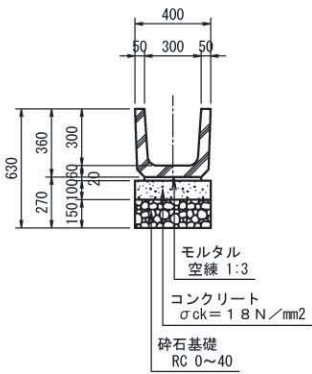
側溝案 標準横断面図 S=1:400



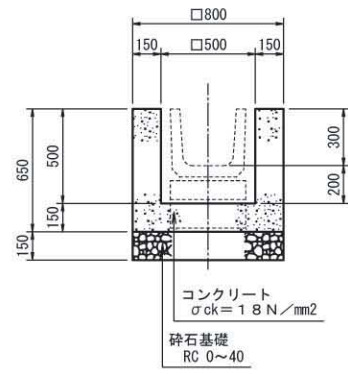
構造図 S=1:40

水路横断面図 S=1:40 ④水路構造

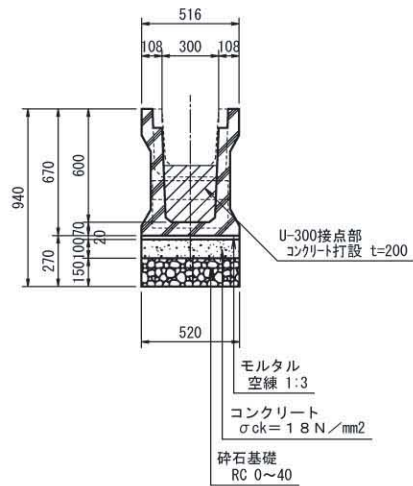
水路側溝 (JIS U-300B)



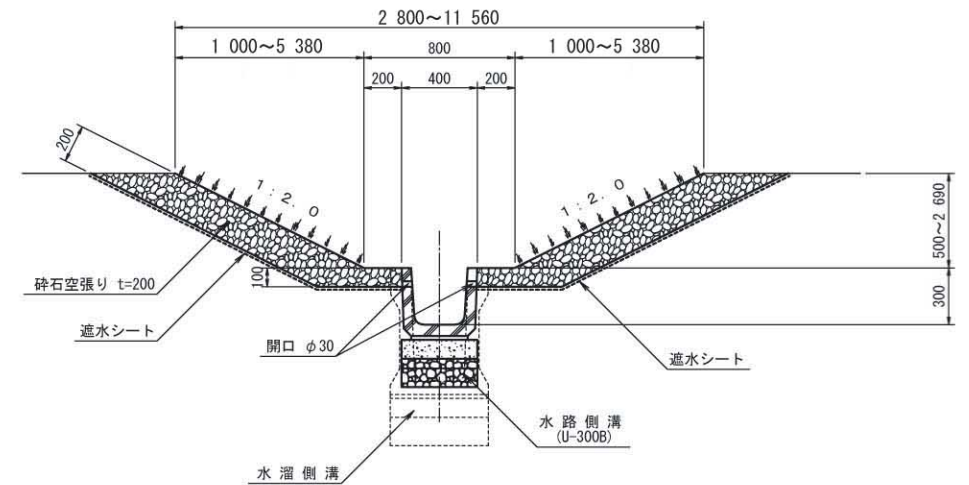
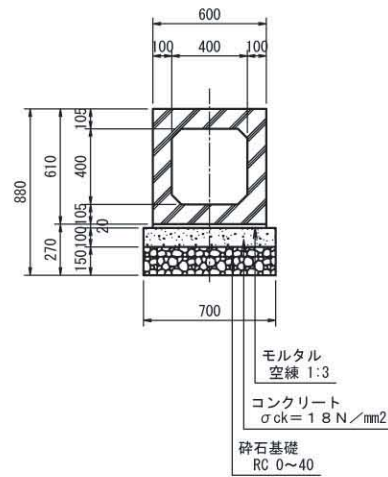
樹-1- ~ 樹-3-



水溜側溝 (深溝側溝 300×500)



ボックスカルバート (400×400)



(2) 【水確保】高水時の本川からの導水(上池・期)

1) 基本事項

呑み口敷高・構造 ()

- ・本川と上池との接続部を切下げ高水時における本川からの流入頻度を高める。
- ・水路呑み口の敷高は、地下水の本川への流出を防止するために、AP+10.30m(地下水水位相当)とする。洪水の流れに耐える構造とするため、越流部はカゴマット構造とする。なお、既設護岸と一体構造とする。

水路敷高・構造 ()

- ・水路敷高は上池の掘削高に合わせて AP+9.50m (*1) とする。水路の法面は既設カゴマットの発生材を用いて石張とする。

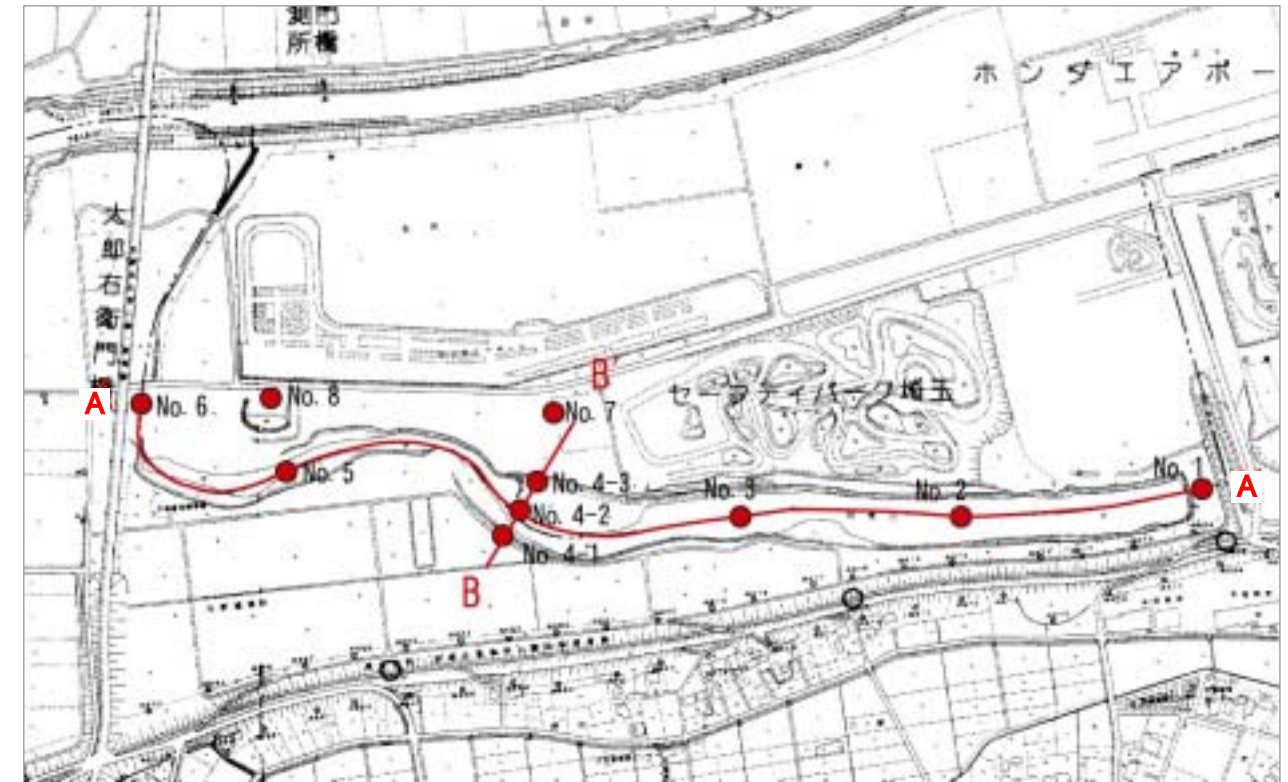
2) 配慮事項

道路横過部 () 2 箇所

- ・道路横過部は、道路機能に支障がないようにするために、ボックスカルバートを設置する。

既設樋管

- ・導水機能を高めるためには、現況敷高を下げる必要があるため、現況の呑み口部に設置されているコンクリート製の樋管は撤去する。なお、既設フトンカゴの栗石は再利用する。

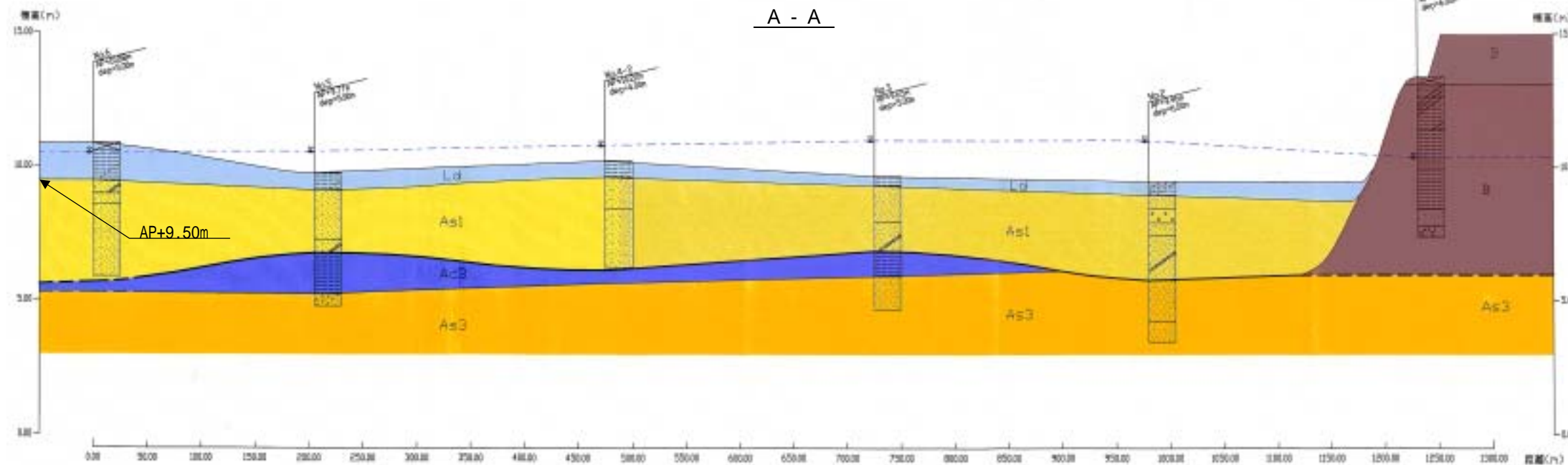


上池土質縦断位置図

(*1) 上池掘削高 AP+9.50m
 上池の掘削は、河床堆積物を対象とする。
 土質縦断図作成範囲の上流端の堆積物底高は、AP+9.50m 程度であり、これを目安とした。

大郎右衛門橋

横堤



地層層序表		
地層名	地層記号	主な土質名
表土・盛土層	□	砂質シルト シルト 粘土質シルト
既河床堆積物	Ld	ヘドロ、シルト 砂質シルト 砂質シルト
旧河床堆積物	第一砂質土層	細砂 中砂 粗砂
	第一粘性土層	シルト 砂質シルト 粘土質シルト
旧河床堆積物 河床堆積物	第二粘性土層	砂質シルト シルト 粘土質シルト
	第二砂質土層	細砂 中砂 粗砂
土角状堆積物	第二粘性土層	シルト 粘土質シルト
	第三砂質土層	細砂 中砂 粗砂

上池土質縦断図

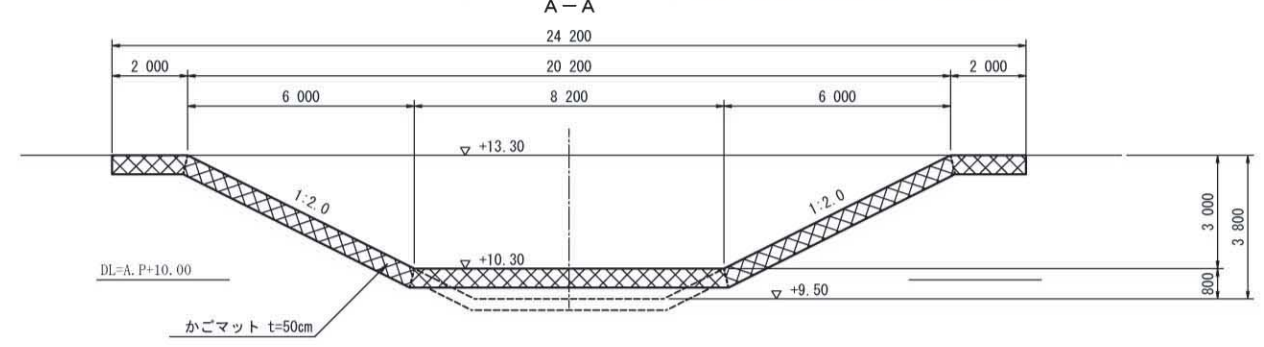
導水路平面図

S=1:200

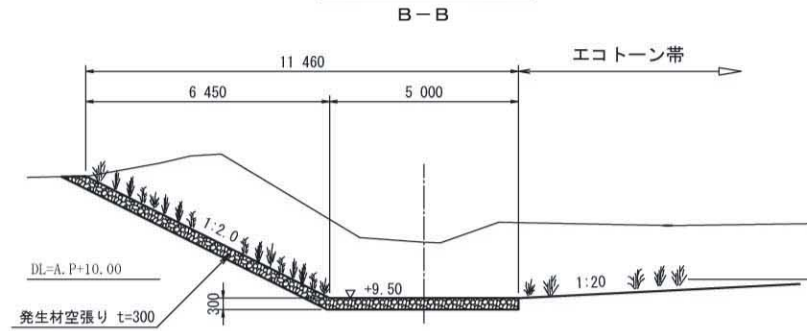
標準横断面図

S=1:200

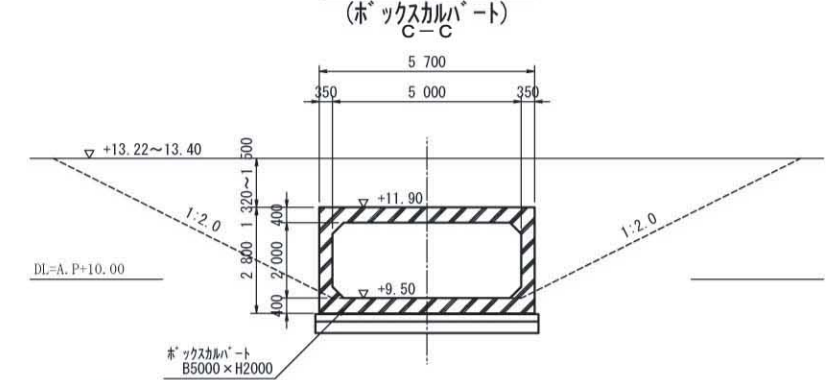
越流部 (①呑み口敷高・構造)



石張水路工部 (②水路敷高・構造)

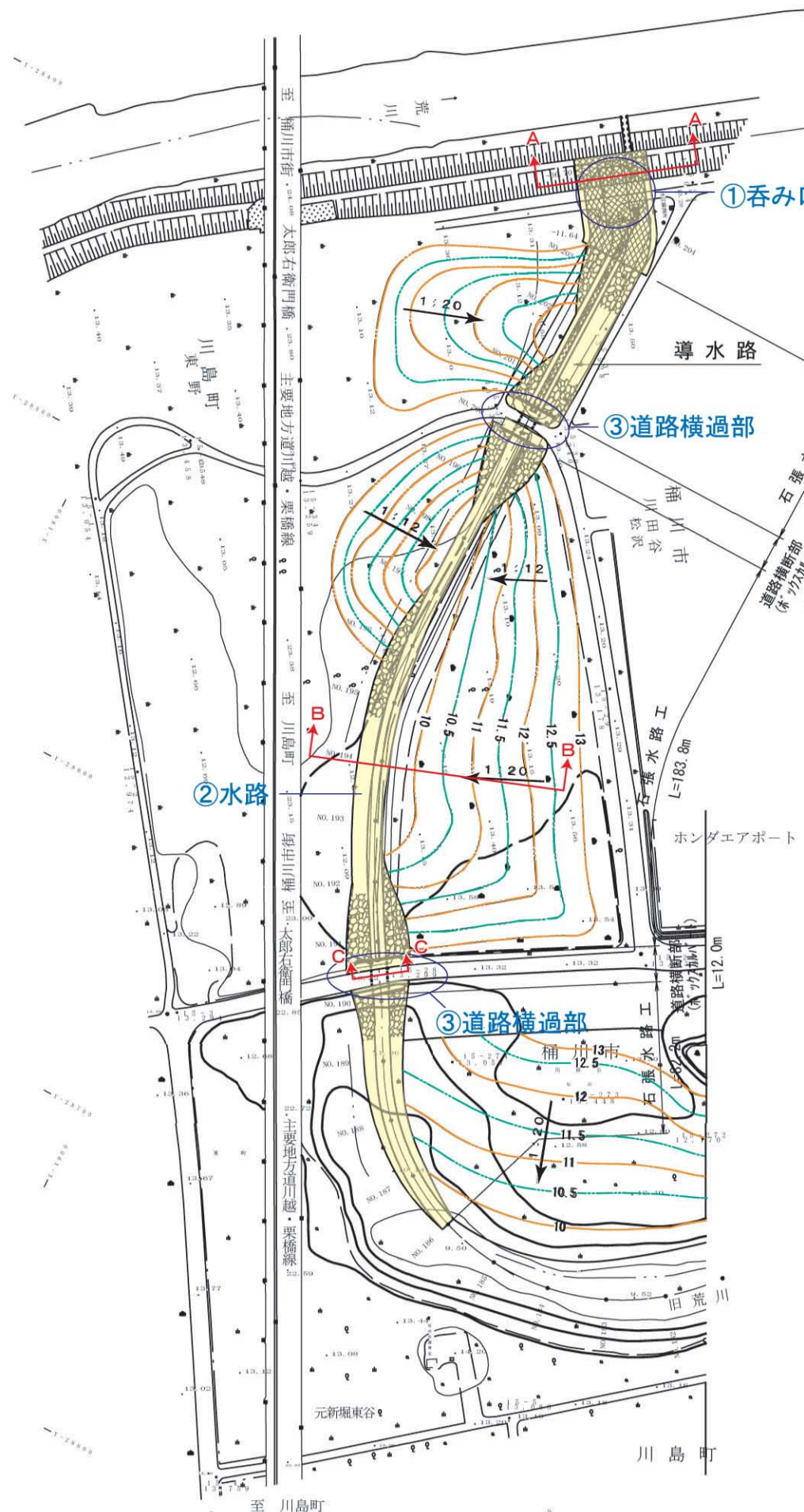
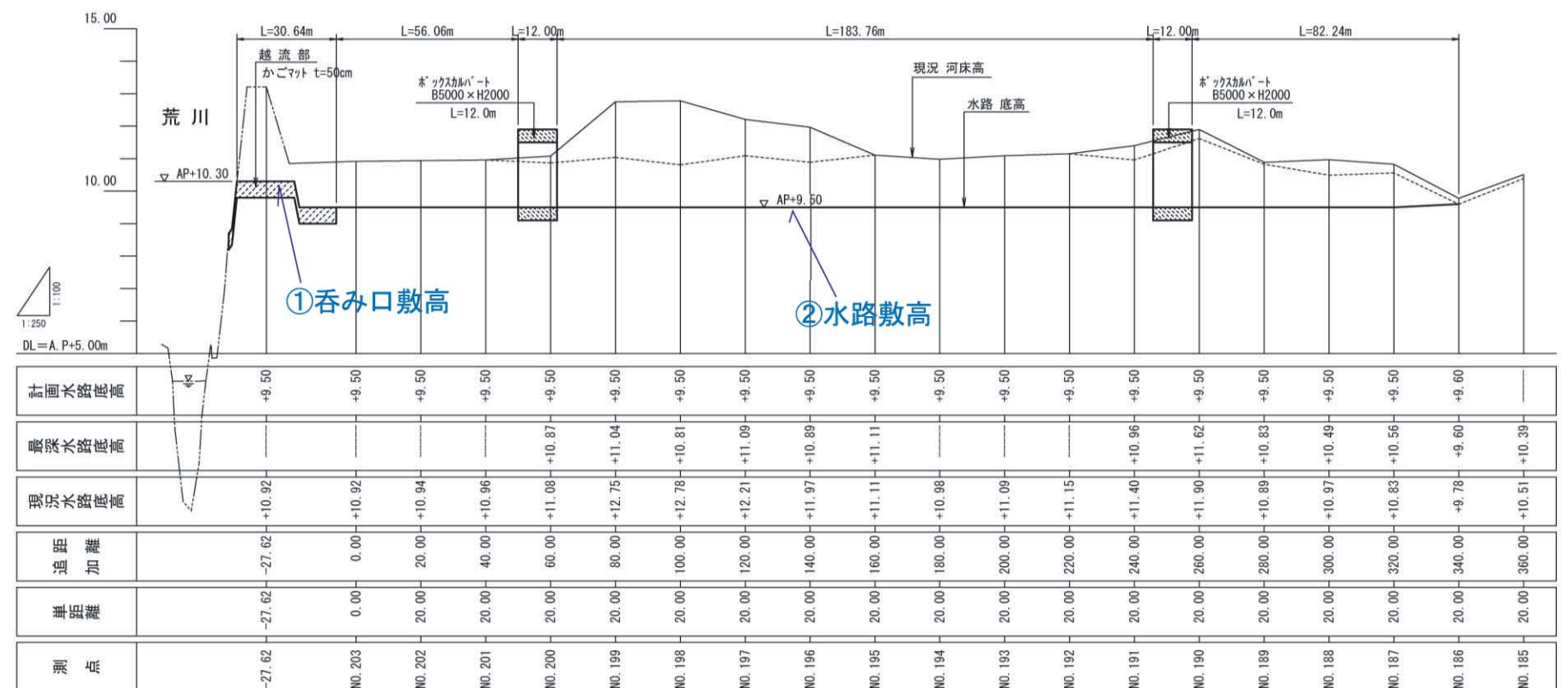


道路横断面部 (③道路横過部)



導水路縦断面図

縦 1:200
横 1:2,000



(3)【水確保以外】ワンド・エコトーンの創出(上池・ 期)

1)基本事項

範囲

- ・空港施設と上池との間の公有地を有効利用し、現況地形を活かしながらワンド及びエコトーン帯を設定する。現況の池()とクヌギ林()は保全する

エコトーン帯の高さ及び勾配()

- ・エコトーン帯は用地に合わせて多様な勾配を創出することとするが、詳細は、試験掘削及びモニタリングを行い設定する。

ワンド()

- ・ワンドは小型魚の生息に配慮し、水深 50cm 以下を目安とする。
- ・ワンドと池との接続部は、小型魚を捕食する大型魚の侵入を防ぐために水深を小さくする。

2)配慮事項

表土利用

- ・水際部の表土は掘削時に仮置きし、再利用することで、水際部植生の早期回復を図る。
例えば、高水時の導水路の法面に覆土することが考えられる。

緩衝帯()

- ・道路との境界部のオギ原は、人や車からの緩衝帯として幅 20m 程度を残す。

エキサイゼリ()

- ・現存するエキサイゼリ群落は保全するとともに、増殖による再生地を設ける。エキサイゼリの増殖再生は、第 期の早期に行うため、エコトーン帯の創出時に再掘削の必要がないこと、また、希少種であるため道路から離すことなどを考慮し、現況の池の前面とする。
- ・増殖にあたっては、室内試験により、エキサイゼリの発芽環境を検討するとともに、現地においても再生試験を行うこととする。

